



第3章 安曇野市が目指す将来像【P61～P66】

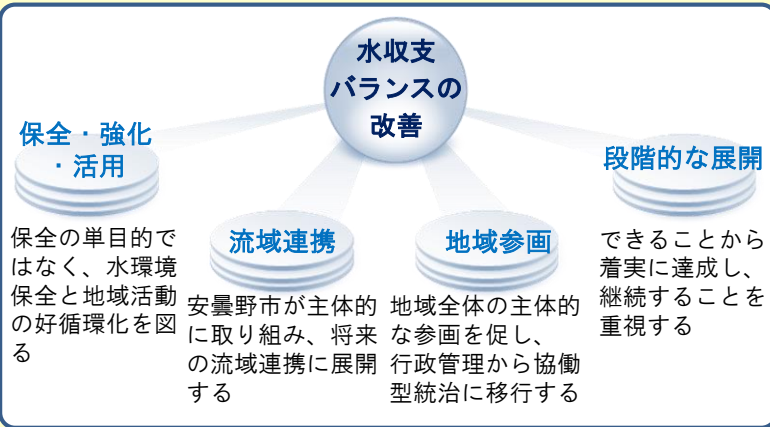
計画のコンセプトは以下のとおりとし、目指す将来像に向けて、着実な歩みを進めます。

～古（いにしえ）から、水とともにある“あづみの”の現在（いま）と未来（これから）～
『水は、次世代からの預かりもの』

第4章 目指す将来像に向けた基本的な考え方【P67～P72】

1 施策検討に際しての基本的な考え方

下図に示す4つの視点から施策を検討し、実施します。



2 施策の目標設定

(1) 水資源の保全・強化・活用施策の目標

「地下から取った水は、取った分だけ地下に還す」を基本的な行動規範とし、人為的な涵養の取組量として、以下の目標達成を目指します。

R8年度の人為的な地下水涵養量：年間300万m³

(2) 施策の実現に向けた環境づくりの目標

施策実現に向けた環境として「水使用量の可視化」や「地域参加の合意形成・意識啓発」などを進め、以下の目標達成を目指します。

流域マネジメントと地域経済の好循環サイクルの構築

第5章 施策の体系【P73～P96】

安曇野市の地下水を取り巻く現状と本計画のコンセプトを念頭に6つの個別目標を設定し、その達成に向け、以下に示す6つの施策※4を柱として取り組みます。

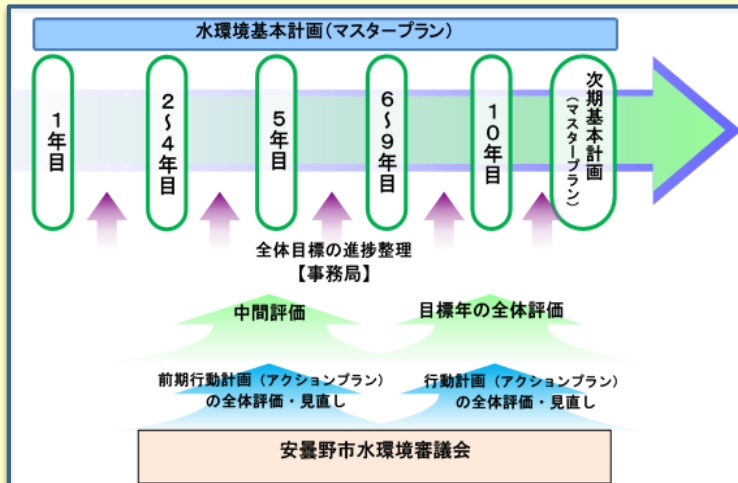


第6章 計画の推進【P97～P100】

「PDCAサイクル」を基本に計画の管理を行います。【Check: 施策の評価】は以下の2段階で行います。

- 個別評価：毎年、年次報告時に事務局が対応する簡易な評価。
・基本計画（マスタープラン）においては、全体目標である水収支改善の指標として涵養量を確認する。
・行動計画（アクションプラン）においては、個別施策の進捗状況・目標の達成度を整理する。
- 全体評価：中間年及び最終年に「安曇野市水環境審議会」が実施する。
・計画の目的に沿った取組が推進されているか等、全体最適の視点から評価を行う。
・全体評価のために必要な調査（地下水賦存量の把握のための一斉測水等）について、計画的に実施する。

水環境基本計画に位置付けられる各施策の評価と見直しの流れは下図のとおりです。



※4 施策の具体的な内容は「水環境行動計画（アクションプラン）」をご確認ください

第1章 計画の基本事項【P1～P6】

1 計画の目的

「安曇野市地下水資源強化・活用指針（H24.8）」で示した方向性を具体化するための道筋を示し、取組の全体像を整理する必要から「安曇野市水環境基本計画（マスタープラン）」を策定します（以下「本計画」といいます。）。

本計画に基づいて、水環境に関わる様々な取組に、市民・事業者・行政等のすべての人々がそれぞれの立場から主体的に関わることで、安曇野市の地下水資源が、将来的にも健全な状態を維持し、安定的に活用され、安曇野市の地域活動が持続的なものとなることを目指します。

2 計画の位置付けと役割

本計画は「安曇野市総合計画」に示される将来都市像や基本目標を、水環境部門において実現します。

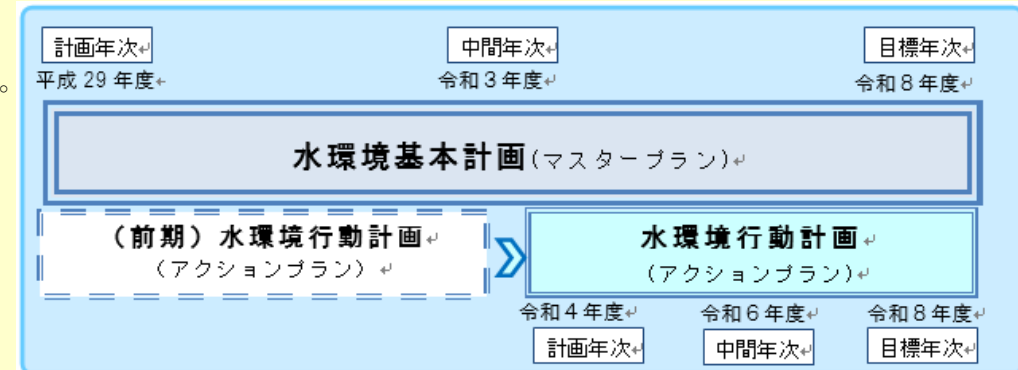
また、「安曇野市環境基本計画」に示される各種の取組を水環境の側面から推進していくための計画として位置付けられ、右の役割を担います。

- ① 地下水は市民共有の財産であり、将来にわたり地域全体で取り組む意識を共有する
- ② リスクの未然回避を原則とする予防対策型の計画として持続可能な水環境を形成する
- ③ 水資源を将来にわたって有効に活用するための保全・強化施策を位置付ける
- ④ SDGsの達成に寄与することを目指す

3 計画が対象とする期間

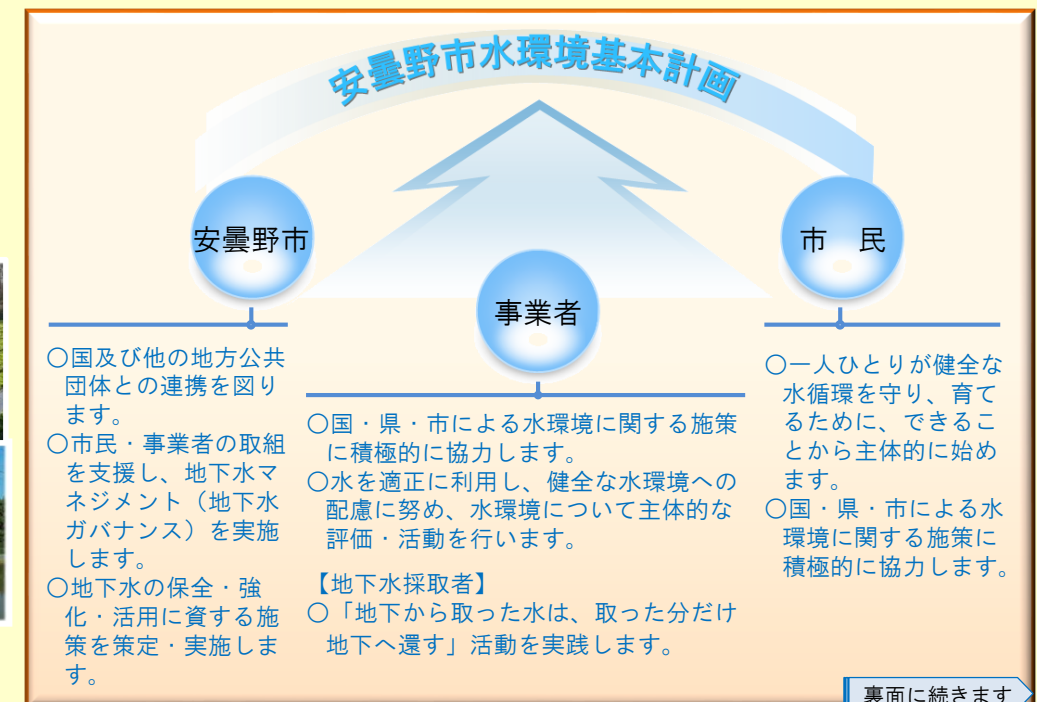
本計画は平成29年度から令和8年度までの10年間を計画期間とします。また、本計画と両輪として、短期的・重点的に取り組む施策を位置付ける行動計画（アクションプラン）は5年間とします。

それぞれ、中間年次と目標年次に見直しを行います（右図）。



4 各主体の役割

市民・事業者・安曇野市は本計画の目的を共有し、それぞれの役割に基づいて主体的に取り組めます（右図）。

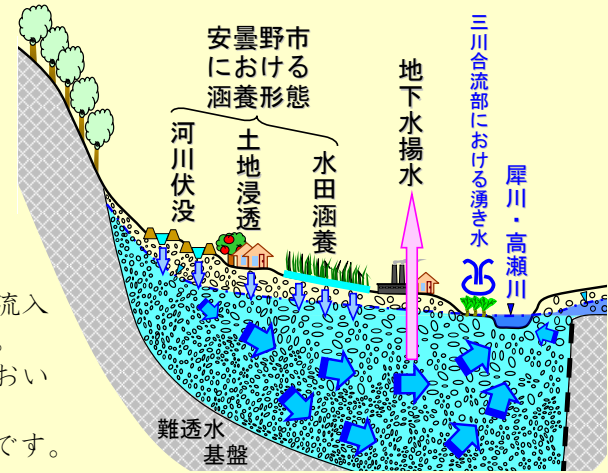


安曇野市水環境基本計画【マスタープラン】概要版【中間見直し版】

第2章 水環境の現況【P7～P60】

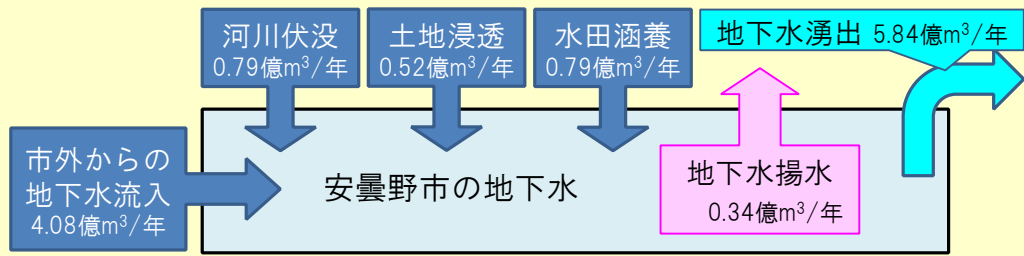
1 地下水を育むもの

安曇野市の地下水は、「広大な松本盆地への降水が浸透（土地浸透）」「河川を流れる途中で浸透（河川伏没）」「農業用水路網を介し水田に湛水されて浸透（水田涵養）」等により育まれます（右図）。



2 安曇野市の水収支

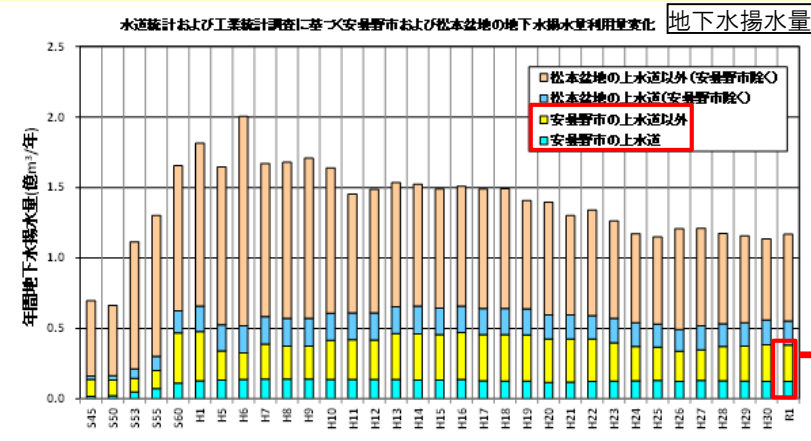
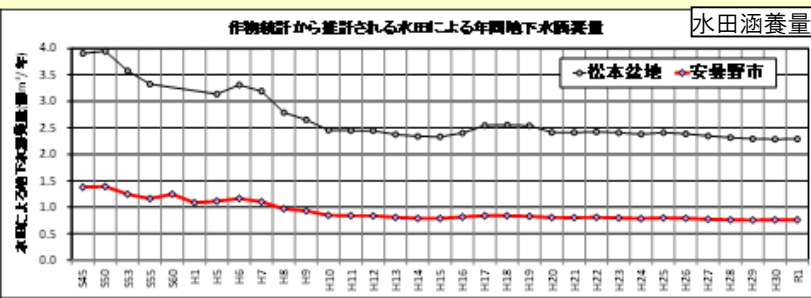
1に安曇野市外（上流域）からの地下水流入が合わさり、安曇野市の地下水となります。そこから揚水された残りが三川合流部において湧き水として多量に湧き出します。その収支は平成26年時点で下図のとおりです。



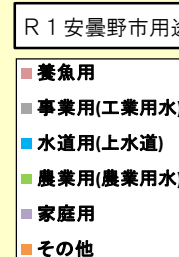
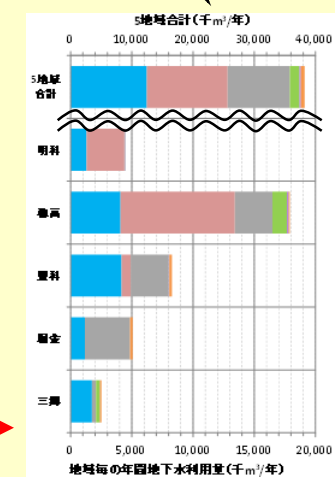
3 水田涵養量と地下水揚水量

上述の項目のうち、「土地浸透」や「河川伏没」は、年毎の雨の増減により変化し、「市外からの地下水流入」は市外の実勢（降水や揚水）により変化します。一方、「水田涵養」と「地下水揚水」は、安曇野市の人為的な実態を反映するもので、今後、安曇野市の水環境を保全・強化していく上で、主体的に取り組める項目であるため特に重要です。過去から現在における安曇野市の傾向は以下のとおりです（下図）。

- 水田涵養量：昭和50年頃から平成10年頃の減反政策による減少後、近年は横ばい傾向
- 地下水揚水量：平成16年以降減少傾向（松本盆地全体では平成6年以降減少傾向）

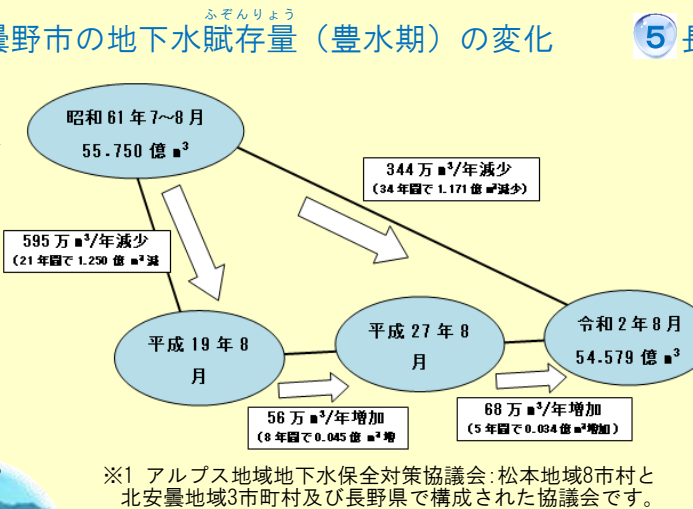


3,823万m³/年 (R1安曇野市)



4 一斉測水による安曇野市の地下水賦存量（豊水期）の変化

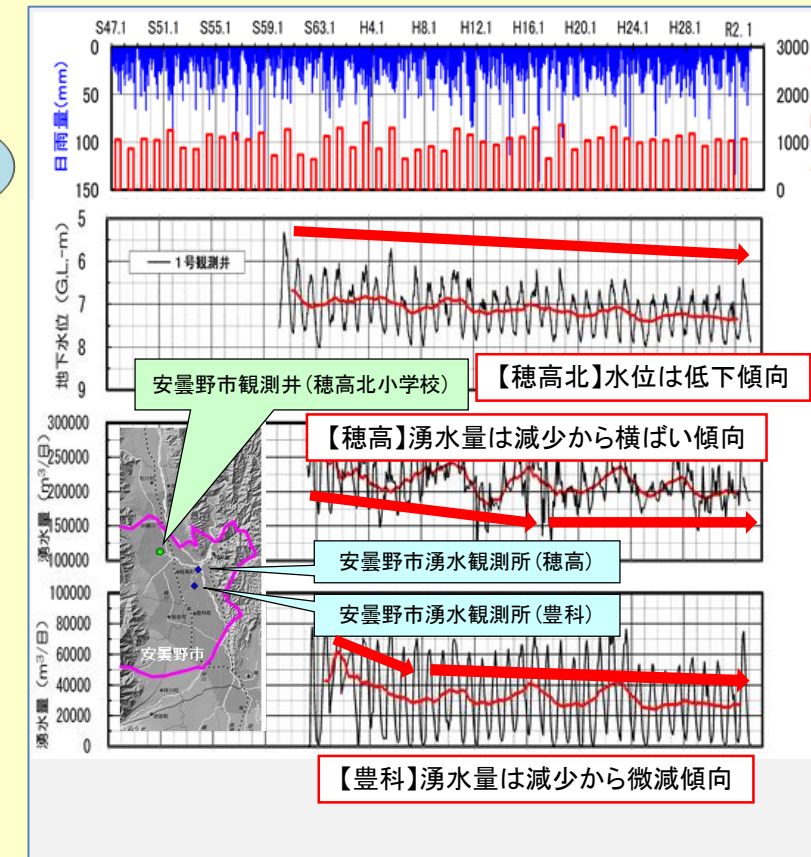
アルプス地域地下水保全対策協議会※1による松本盆地の一斉測水（H27年度）、安曇野市水資源対策協議会による安曇野市を対象とした一斉測水（R2年度）が実施されました。これらと過去の結果から昭和61年から平成19年に減少していた地下水賦存量は、平成19年以降、令和2年にかけて微増しています（右図）。



※1 アルプス地域地下水保全対策協議会: 松本地域8市村と北安曇地域3市町村及び長野県で構成された協議会です。

5 長期的な地下水位と湧出量の変化

安曇野市には長期間観測されている井戸や湧き水があります。の地下水位は低下、湧き水の量は減少傾向ですが、近年10は横ばいとなる箇所も認められます（下図）。



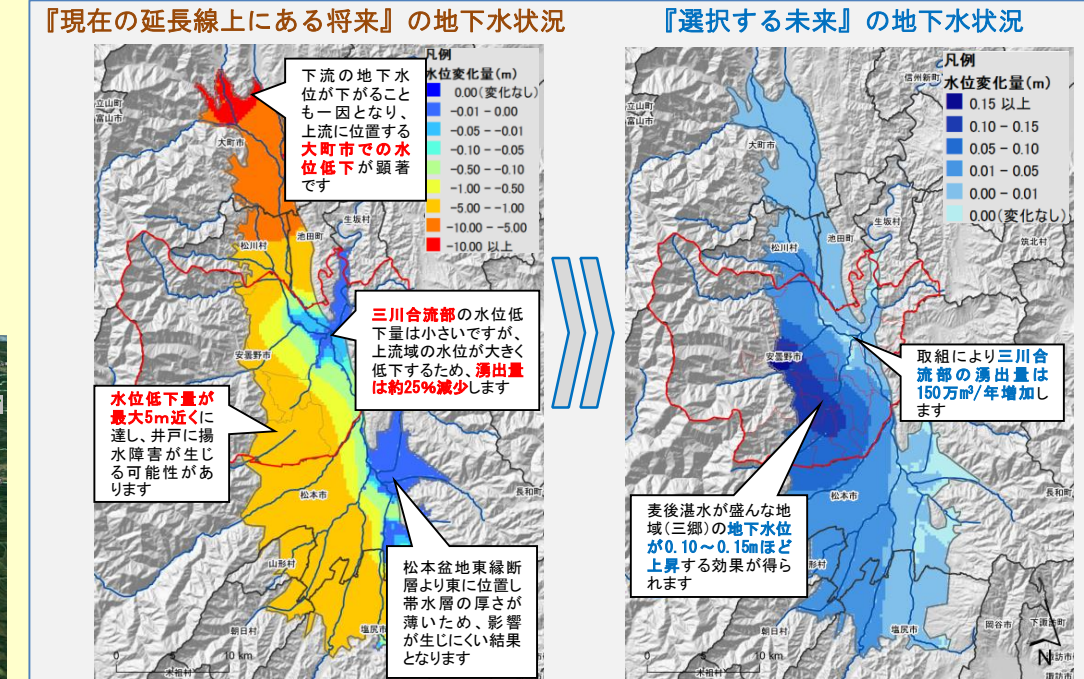
水は、次世代からの預かりもの



第3章 安曇野市が目指す将来像（信州大学可視化研究成果から見える安曇野の地下水【P61～P66】）

松本盆地の水田が現在より40%減った場合を「現在の延長線上にある将来（下左図）」、年間300万m³/年の麦後湛水※3を実施した場合を「選択する未来（下右図）」と称し、松本盆地の水位変化を予測しました。

水田減少は、安曇野市を含む盆地の地下水位を大きく低下させる一方、麦後湛水の取組は確実に地下水位の上昇、即ち、水環境の保全・強化に繋がります。



※2 信州大学可視化研究：安曇野市の水環境の把握や理解及び本計画の施策検討や費用負担ルールの合意形成等に寄与するため、平成27年11月～平成28年10月に信州大学により実施された研究です。本計画の実現性や実効性を担保する科学的裏付けとして活用されました。
 ※3 麦の刈り取り後の転作田に水を張る（湛水）ことで、地下水を涵養する取組。安曇野市水環境行動計画（2022～2026）では「水田機能維持・地力増進推進事業」となっています。

裏面に続きます